

－開催にあたって－

鈴立山若松寺は、山形県天童市山元に所在する天台宗の寺院です。最上三十三観音一番札所として知られ、「若松観音」「若松さま」として庶民の信仰を集めてきました。寺伝によれば、和銅元年（708）行基によって開かれたとされ、平成20年に開山1300年を迎えます。この地域を代表する古刹であり、現在も十三ヶ寺からなる一山組織を形成しています。

本展は、開山1300年という節目の時期にあたり、若松寺と一山寺院に受け継がれている文化財を出来る限り集約的に展示し、その歴史を振り返るとともに、若松寺をめぐる信仰について探ろうとするものです。若松寺関連の資料が、このような形でまとめて公開されるのは初めてのことになります。本展をとおして、多くの皆様に若松寺について理解を深めていただければ幸いです。

本展開催にあたり、共催という形で全面的にご協力いただいた若松寺並びに若松観音開山1300年祭記念事業実行委員会の関係各位、ご後援、ご指導賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成19年7月

山形県立博物館長 阿部 寛



関連行事

(1) 特別展記念講演会・シンポジウム

テーマ：古代・中世の若松寺をさぐる

◇記念講演

講師：伊藤清郎（山形大学地域教育文化学部教授）

◇シンポジウム

コーディネーター：川崎利夫 パネラー：4名

期日 平成19年9月8日(土)

時間 午後1時30分から4時30分

会場 山形県立博物館 講堂

(2) 特別展セミナー

期日 平成19年7月28日(土)

テーマ 若松寺の文化財

講師 川崎利夫、村山正市

期日 平成19年8月11日(土)

テーマ 近世・近代の若松寺

講師 近藤守利、渡邊 政

期日 平成19年8月25日(土)

テーマ 若松寺をめぐる信仰と習俗

講師 野口一雄、小田島建己

各回共通

時間 午後1時30分から4時

会場 山形県立博物館 講堂

(3) 現地見学会

期日 平成19年10月6日(土)

時間 午後1時30分から3時

会場 若松寺（現地集合・解散）

講師 若松寺住職 氏家榮脩、赤塚長一郎、川崎利夫

(4) 展示解説会

7月15日(日)、8月19日(日)、9月22日(土)

各回とも午後1時30分から学芸員による解説を行います。

山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8（霞城公園内）

TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112

URL <http://www6.ocn.ne.jp/~ykmuseum/>

特別展 若松寺の歴史と遺宝

わかまつ かん のん
若松観音1300年のあゆみ

平成19年7月14日(土) ▶ 10月7日(日)



山形県立博物館

聖観音菩薩坐像鏡像

共催：鈴立山若松寺

若松観音開山1300年祭記念事業実行委員会

若松寺のあゆみ

若松寺の歴史を、時代ごとの代表的な資料によってたどってみましょう。

※展示の配列とは異なります。

飛鳥時代 和銅元年(708)

行基により若松寺が開創されたと伝えられています。

平安時代

平安時代のはじめの貞観年間に、慈覚大師円仁が若松の地を訪れ、権現平にあったという観音堂を現在地に移したと伝えられています。表紙の聖観音菩薩坐像鏡像は、銘はありませんが、その様式によって、平安時代後期から鎌倉時代の初期に制作されたと考えられます。

鎌倉時代

弘長3年(1263)

聖観音菩薩坐像懸仏

地元の有力者らによって、聖観音菩薩の懸仏が奉納されました。この頃には、懸仏を懸けるのにふさわしい規模の堂が建てていたと考えられます。若松寺関係で年代が明らかな資料では最も古いものです。



室町時代

文明11年(1479)

文殊菩薩坐像

この文殊菩薩像は背中の墨書銘によって、この年に若松寺食堂本尊として納められたことがわかります。



江戸時代 慶長16年(1611) 観音堂大改修

16世紀はじめには、現在の観音堂の原形となる建物ができていたようですが、江戸時代のはじめに山形城主最上義光によって大改修が施され、経済的な安定ももたらされました。



室町時代

永禄6年(1563)

板絵著色神馬図

武人画家郷目貞繁が、妻の冥福を祈るために神馬図を描き、若松寺に奉納しました。

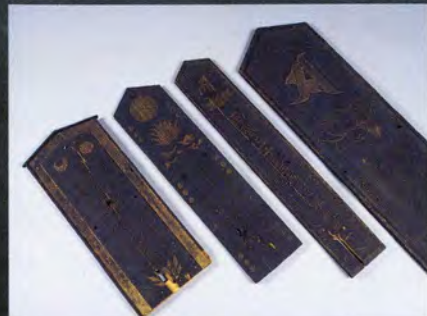


室町時代

延徳4年(1492)

西国三十三所巡礼納札

観音信仰が庶民に広まり、巡礼を行った人たちによって納札が奉納されました。記されている中で最も古いのがこの年号です。



江戸時代 慶安3年(1650) 境内図

年号が記された絵図では最も古いものです。江戸時代のはじめ頃の境内の様子がわかります。



江戸時代

貞享3年(1686)

繫馬図絵馬



明治時代

明治5年(1872)

観音巡礼図絵馬



幅広く信仰を集めていたことが、多くの絵馬や、その他の奉納物からもわかります。

最上三十三観音一番札所として、縁結びの寺として、今日も多くの方々が訪れています。